



今回は、本年度の具体的な取組「② 幼児が「やってみたい」と思うような遊びの環境をつくり援助を行う」についてお知らせします。幼児が言葉で自分の思いや考えを伝える力、考えたり試したりしながらあきらめずに取り組む力を育てていきたいと思ひます。そのためには、「やってみたい」と感じる魅力ある遊びの場、十分に試すことができるように道具の数・種類、仲間となつて一緒に取り組む教師の存在、思いを受け止めたり幼児同士が思いを伝え合うことができるように仲立ちをしたりする援助が大切だと考えます。

本年度の具体的な取組

- ① 幼児の思いや姿から成長につながるような義務教育学校との交流を行う。
- ② 幼児が「やってみたい」と思うような遊びの環境をつくり援助を行う。
- ③ 基本的な生活習慣が身に付くように「きらきらカード」の活用や指導を行う。
- ④ 友達や異年齢児と関わり、互いの思いに気付くような「ピア・サポート」の実践を行う。
- ⑤ 昭和地区のよさや地域の人の優しや、温かさを知るような園外保育や交流を行う。
- ⑥ 親子で地域を知ることができるように地域行事への参加を促す。



自分の場所、部屋となる段ボール箱を準備しました。教師も役になって同じ場で遊びます。



2人で乗ることができる電車。段ボールを使って職員が手作りしました。



砂場には種類の異なるふるいを出しています。5歳児は経験から「さら粉を作るのは右のほうがいい」と答えました。



山を作り、真ん中に穴をあけています。教師は、幼児だけではできない所を手伝います。



「せ〜の」で穴に水を入れ「火山爆発」。勢いよく水が流れる様子を楽しんでいます。教師も一緒に喜んだり気づきを言葉で伝えたりします。



その日経験したことを学級で共有する時間を作ります。自分の思い（挑戦したこと、分かったこと、うまくいかなかったこと等）を友達に言葉で伝え、友達の話を聞いて明日の生活や遊びに期待をもつようにしています。

きりとりせん

読まれた感想・ご意見などありましたら教えてください。園長だより3 ()組 園児名()